

豊かな地域資源を生かした しまなみグリーン・ツーリズムの取り組み

取組みのきっかけ

しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会は、地域の豊かな「資源」と「くらし」を多くの都会の人達に体験してもらい、交流



しまなみの農家レストランカフェ



しまなみの農漁家民宿

を通じて元気なふるさとを取り戻そうとしまなみ海道が開通した翌年の平成12年6月に生活研究グループが中心となって設立されました。設立当初は、グリーン・ツーリズムの勉強から始まり、研修会や視察を重



しまなみ
グリーン・ツーリズム
推進協議会事務局

重松 康之

ねて、「何もない、何もしない」、「お金をかけず、ある物を生かす」、「都市住民は心が癒せ、農村住民は心と経済が潤う」などのキーワードを基に、活動の中心であった生活研究グループが、自分たちの地域を改めて見直し、しまなみの自然や旧跡、郷土料理や生活技術を掘り起こして体験メニュー作りや交流を進めました。

その活動は次第に中核的農業者や漁業者などにも広がり、タコ飯づくり、地引き網体験、みかん狩りなどしまなみを代表する多彩な体験メニューが開発されました。

現在の取組み

現在、農漁家民宿6軒、農家レストラン・カフェ4軒、体験メニュー62を提供し、交流人口は年々増加しており、昨年度体験メニューで2万6千人との交流がありました。このような中、都会からのインターン就農者もグリーン・ツーリズムに参加し、地

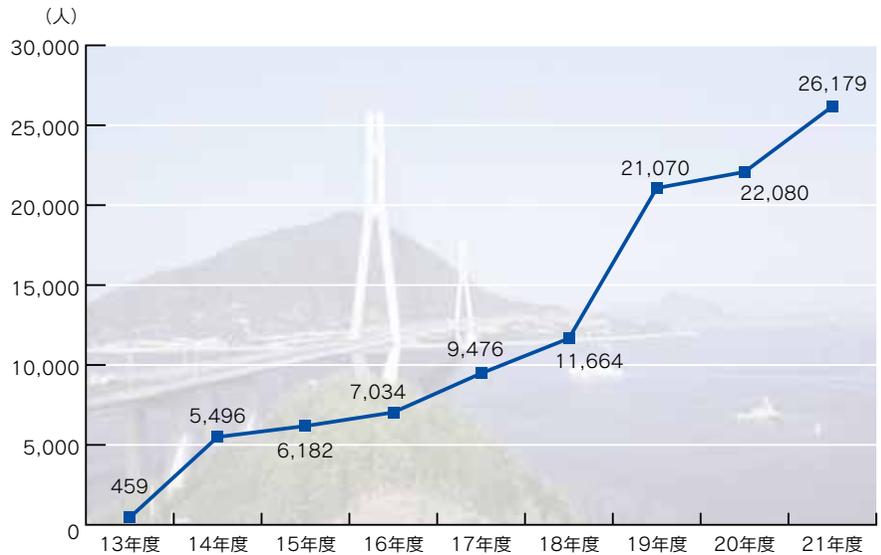


子どもプロジェクト「しまなみダー！」

元の人達が気づかない地域資源の発見や島暮らしを展開しています。その動きは新規体験メニューの作成や農家民宿、農家カフェの開業と進んでいます。そして、協議会のスタッフとしても活動し地元の人にはない感性を発揮し活躍しています。

また、修学旅行をはじめとする学校教育旅行の受入れにも取り組み、平成14年からスタートした修学旅行の受入れは、東京・大阪方面から毎年2〜3校がしまなみを訪れ定着してきました。また、昨年度からは子ども農山漁村交流プロジェクト事業により小学5年生を対象に長期宿泊体験を受け入れています。修学旅行生や小学生の素直な驚きや喜び、交流は地

域の人々にとって楽しみであり生きがいにもなっています。
さらに、販売にも力を入れ、昨年度から柑橘や加工品をインターネットやカタログで販売を始めました。



体験者数の推移

今後の展望

今日、しまなみ地域を訪れる人の流れは、しまなみ地域での宿泊は少なく、通過型の旅行体系となっています。しまなみ地域で「のんびり、ゆっくり」過ごし、心に残る体験や交流をすることが、もう一度しまなみを訪れようという動きになり地域の活性化にも繋がります。このためにも、しまなみで宿泊を伴う長期滞在型の交流へシフトさせるために、農漁家民宿の推進を図りたいと考えています。また、「しまなみらしい」体験メニューの開発や異業種と連携して、しまなみ地域の活性化に取り組む計画です。

お知らせ

平成23年1月15日(土)10時〜14時50分、今治市伯方開発総合センターにおいて、しまなみグリーン・ツーリズム研修大会を開催します。この研修は協議会設立10周年を記念し、10年間のあゆみと今後の方向について研修を行います。参加者の募集を行っていますので多数の方の参加をお願いします。

詳しくは、しまなみグリーン・ツーリズムのホームページをご覧ください。
<http://shimanami.ciao.jp/>